

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577300308		
法人名	社会福祉法人 平生町社会福祉協議会		
事業所名	ひらお・みんなの家		
所在地	山口県熊毛郡平生町大字平生村618-2		
自己評価作成日	令和4年12月9日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・お客様の意見や意向を傾聴し、自己決定を大切に1日1日を、楽しく過ごして頂けるように努めています。・リビングには大きな窓が有り山や空の景色が見え、コロナ禍でも窓越しに電話でお話しながら面会が可能です。・お客様には出来る事はできるだけ継続して頂けるように、洗濯干し、洗濯たみ、食事の下準備、台拭き、口や健康体操、散歩、ドライブ、様々なレクリエーション、年間行事、誕生会、脳トレ、おはぎ作り等に参加されています。 ※現在外出・面会については新型コロナウイルス感染症対策により制限を設けています。・冬の寒い時期にはリビング・廊下・脱衣場が床暖房で、足元から暖かく過ごしやすくなっています。・食事は朝食、夕食、日曜日の昼食は、旬の食材を使用しお客様の希望も取り入れながら家庭的な食事をお作りしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最近の特徴的な取組みは第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化がある。事業所は尊厳と感謝の念をもって利用者を「お客様」と位置付け、気軽に訪問できる事業所作りに取り組むも現在はコロナ禍による制限がある中、電話を介した短時間の窓越し面会で殆どの利用者との面会が実現している。第二に「活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援」に深化がある。閉じこもりがちな生活の中、利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援している。今できる事に着目し、できて自信になる事を大切にしている。折り鶴で季節の風物詩を作ったり、花の苗を植え付けたり、歩行練習等の活動性向上や車窓からのお花見ドライブ等、役割・嗜好品・楽しみごと・気分転換等の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのままで変更しないでください】

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示して有り、日々のケアに活かせるように努めている。	法人内の各事業所毎に策定した介護理念を掲示して職員への周知を図り、ケア実践上の道標としている。職員は毎月の職員会議や研修等の中で事例を通して話し合い、理念を共有している。又、職員も理念を踏まえて目標シートを策定し、年2回の個人面談でその達成度を検証している。	理念策定から10年を迎え理念の周知や実践につき、より深く取り組むことで更なる向上を期待したい。職員目標は年2回の個人面談で検証しているが、事業所理念についても具体的な達成度を定期的に検証できる仕組み作りを通して、評価の検証過程を「可視化」することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会のお祝いメッセージを平生町内の学生さんから頂いたり、産業祭りのサプライズ花火を鑑賞されている。※ボランティアの来訪等は新型コロナウイルス感染症対策により現在控えている。	現在はコロナ禍により様々な活動を自粛している。ただ法人内の散歩・お花見ドライブ・受診・馴染みの美容院の利用や消防団からの情報提供で勝手口の窓から季節外れの花火見物等、地域との繋がりは続いている。又地域の学生から敬老会のお祝いメッセージ等、世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は認知症に関する知識を日頃から深めるように努め、地域の方々からの相談等にも応じられるようにしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価のシートを職員に配布して記入している。その後とりまとめをして外部評価の自己評価・実践状況を入力している。	自己評価は管理者が職員に評価の意義を説明し、全職員が自己評価欄に記入したものを管理者が集約している。職員は評価を通して日頃の実践を振り返り課題に気づき、又、外部評価結果を運営推進会議で報告し、出た意見を踏まえて事業所として自立支援に資する改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回(2ヶ月に1回)開催している。ご利用状況、日々の取り組み、行事、火災・防災訓練の報告をしている。質疑応答で参加者からご意見を頂きサービスに活かしている。※新型コロナウイルス感染症対策により書面開催のこともある。	家族・民生委員・消防団・地区社会福祉協議会会長・地域包括支援センター職員・町担当課職員が参加しているが、コロナ禍で直近6回の内2回は書面会議である。町から家族に届いた防災名簿作成に町担当課職員から説明がある等、事業所はコロナ禍での効果的な会議運営に努めている。	多様な職種の参加を得ているが、コロナ禍でもあり家族の参加は少ない。議事録の閲覧は可能であるが、参加していない家族との事業所運営に関する情報の共有に不十分な面がある。今後はコロナ禍での参加できない家族との情報交換の仕組み作りを通して更なる会議の活性化を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故や台風等の災害や新型コロナウイルスの陽性者が発生した場合等速やかに平生町の健康保険課へ報告するようになっている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加して運営情報を共有し、会議の開催報告書は担当課に持参している。担当課とは日頃の相談・報告の他、集団指導等、行政主催の研修会や町認知症対応型事業所連絡会への参加等を通して協力関係の構築を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度身体拘束についての研修(チェックシート有り)を行っている。玄関や居室には施錠はしておらず、職員は言葉遣いにも気を付けている。	事業所の年4回の拘束禁止委員会や法人年2回・事業所年4回の研修会、自己点検シート等により職員は「拘束をしない」必要性を認識して具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケア等の事例は毎月の職員会議等で検証している。日中は玄関を施錠せず見守り対応である。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1度虐待についての研修(チェックシート有り)を行っている。言葉の虐待についても考え対応もお互いに気を付けるようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、日常生活自立支援事業、成年後見制度については相談窓口の紹介ができ、それらについての知識を深めるようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居されるにあたり契約時にはご不明な点が無いように説明させて頂いている。その他にも質問や疑問点があった場合は早目に回答をして安心して頂けるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の相談窓口、担当者、外部機関を掲示している。第三者委員会を設置してある。	家族の要望は面会・電話連絡・介護計画更新等を介して把握し、それを職員は毎月の職員会議等で共有して迅速な対応に努めている。事業所は家族から利用者の体力低下や淋しさへの心配に対し、歩行練習等の活動性向上や孤立させない対応に配慮した支援に取り組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング(コロナ禍にて書面開催もあり)や年に2回の個人面談を実施している。日頃から職員の意見を聞き業務に反映できるように努めている。職員ストレスチェックシートでのチェックを年に1回受けている。	毎月の職員会議、随時又は年2回の個別面談等を通し、管理者は職員の意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制を採っている。新型コロナウイルス収束状況に応じて、感染防止アクリル板を挟んでの短時間面会や利用者の馴染みの店での散髪に繋がった例もある。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、評価の結果を個人に伝えている。各自が目標を設定して業務に取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やOJTを実施している。その他必須の外部の研修にも参加している。内部の研修(コロナ感染症対策により書面使用有り)も行っている。※現在新型コロナウイルス感染症対策により外部の研修は控えている。	本来事業所は職員各自に応じた段階的・計画的な研修体系を構築しているが、最近ではコロナ禍により外部研修は控え、書面による内部研修とする事が多い。担当職員が身体拘束、虐待、認知症ケア等のテーマについてまとめ、職員間で共有している。新人研修やOJTによる支援もある。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入している。平生町認知症対応型事業所連絡会に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様やご家族に面会してお話を伺い安心して頂けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在新型コロナウイルス感染症対策の為入居前に施設内の見学をして頂けないのでリビングの窓から様子を見て頂いています。その他ご不安な点についてはその都度相談させて頂いている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用開始に際してはご本人の状態を職員間で情報共有するように努めている。ご本人・ご家族のご意向を伺い安心して過ごして頂けるようにしている。他に必要な機関があれば繋げている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のお好きな事や興味のある事に取り組んで頂けるよう生活の中から発見に努め職員間で情報を共有している。色々な家事をお手伝いして頂き感謝し、生きがいを感じて頂いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は受診や散髪・面会など、グループホームを運営していく上でも色々協力して頂いている。ご本人の日頃の様子を年に4回季節ごとにお便りをお届けしている。体調変化については細目に相談させて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の知人・友人・親戚等面会は自由にして頂いている。馴染みの美容院・病院に行かれている。一時帰宅や外出・外食も以前は自由で可能であった。※現在新型コロナウイルス感染症対策により制限を設けている。	今はコロナ禍ではあるが、地域との絆を大事にしている。馴染みの美容院、電話を介した窓越し面会や年賀状の受け取り・電話の取り次ぎ等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に関わり、利用者・家族の気持ちに寄り添った関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員はお客様が寂しい思いをされないように皆様にお声掛けをさせて頂くように心がけている。 ご利用者様同士で談笑されていますが、必要な時には職員が間に入りトラブルにならないように配慮させて頂いている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も今まで築き上げてきた信頼関係を大切にして、年金関係の書類の記入依頼等必要な時には相談させて頂いている。 又、ご家族が来所して下さいこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人様が感じておられるお気持ちを知り、出来るだけご意向に添えるように、センター方式のシートや介護記録へ記入している。それをカンファレンスや計画書の見直しで活用している。困難な事例については、事例検討をすることがある。	職員は利用者とゆっくり話す中で深く関わりを持ち、思いを汲み取って「私の姿と気持ちシート」や介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。「歩かんと歩けなくなる」と廊下の歩行練習や蹴伸ばしが苦にならない利用者がランチョンマット畳み等、できることから始めた例もある。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様がお話して下さいたり、ご家族からお聞きした情報を大切にしている。サービス計画を作成する際にも把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れを介護記録に記入している。変化があった時には申し送りや連絡ノート、職員間で情報を共有するように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に計画書の見直しを行っている。ご家族には計画書の変更を説明している。ミーティング・カンファレンスで本人様の様子について検討を行いサービス計画に反映している。※新型コロナウイルス感染症対策によりセンター方式のシートも参考にして作成している。	関係職種の意見も反映した計画原案を担当者会議で検討し、家族の同意を得て本案としている。計画作成担当者が3ヶ月を基本にモニタリング・計画を見直している。利用者のわずかな表情の変化から排泄リズムの仮説を立て、適宜医師に相談して下剤や食事形態の調整をしたこともある。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルにバイタル・排泄回数・水分量等の記入をしている。介護記録にはいつもと様子が違いがある場合等は特記で記入をするようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の状況によって新たなニーズが生じた場合には、相談・検討して解決策を見出すようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握するように努め、必要な時には紹介が出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様は各々ご希望のかかりつけ医を持っておられ、必要に応じて他科受診もされている。 精神内科医に2週間に1回往診して頂いており、体調変化時にも相談させて頂いている。	利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。協力精神内科医から月2回の訪問診療、歯科や専門医の受診は主に家族が協力している。緊急時や夜間は各主治医と連携し、又非常勤専従の看護師の配置もあり、適切な医療を受けられる体制を築いている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	引継ぎ時にお客様の体調変化について、職員間で情報共有するよう努めている。看護師にも相談しアドバイスを受けている。体調変化については早めにご家族へ連絡相談し受診へ繋がるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時にはサマリーの提供、情報交換や相談に極力努めるようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明させて頂いているが、体調変化が生じた場合にはその都度、医師・ご家族に説明相談して今後のことについて決めている。	利用開始時、「重度化対応に関する指針」にて基本的な方針を説明し了解を得ている。原則看取りは行わず、重度化した際には関係者で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。協力医との医療連携を基に入院等による十分な医療・介護支援体制に取り組む方針である。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時対応マニュアル(日中・夜間)が有り、急ぐ時には迷わず救急対応(119要請)が出来るようにミーティングで話をしている。	事故防止のため緊急時対応マニュアルを整備し、年末年始の会議で手順の周知徹底を図っている。実践力に繋げるべく緊急時対応点検シートや事故発生状況報告書の作成・回覧・職員会議での総括を通して情報共有に取り組んでいる。コロナ禍ではあるが初期対応力等の習得に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回、防災訓練を年1回実施している。運営推進会議には消防団の方が話し合いに参加されている。	消防署指導の下、年2回の火災訓練と年1回防災訓練を実施している。コロナ禍のため火災訓練の内、避難訓練はシュミレーションにて行うも防災訓練では隣接の系列事業所2階まで利用者を垂直避難させている。地元消防団とも運営推進会議等で訓練の助言や防災情報の提供を受けている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様を人生の先輩と敬い、丁寧な言葉遣いを心掛け、ご利用者の誇りやプライバシーを損ねるような声掛けはしないように配慮している。倫理規定遵守チェックシートで毎年12月に再確認している。	研修で職員は幅広い知識の習得と資質向上を図ると共に年1回接遇自己点検シートにて日頃の言動を振り返り自己覚知を図っている。利用者への不適切な対応には管理者は適宜指導を行うが、職員間で話しやすい雰囲気を作っている。下駄箱にはイニシャル表記等、個人情報にも配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、その都度皆様がどのようにされたいか意向を伺い、自己決定が出来るように支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのようにされたいか、自己決定を大切に、お一人おひとりの意向になるべく添うように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水・乳液を持参されている方は、起床時や入浴後に肌を整えられている。馴染みの美容院へ行かれる方もある。季節に合った洋服選びや洗顔、口腔ケア、整髪、爪切り等の支援をしている。出来る方はご自分で、難しい方は一緒にさせて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は起床時間に合わせて個別に対応している。食事は旬の食材を使用しお客様からの希望を取り入れたりしている。料理の下準備や台拭き、食後の器の片付けを手伝って頂いている。	平日の朝・夕食と日曜の昼食は職員が献立・調理をし、他は法人厨房からの配食にて提供している。会話の中で出た利用者の好みを献立に反映させ、菜園や差し入れの野菜を活用したり、秋分のおはぎ作り・季節の行事食等、楽しみとなる工夫もある。利用者も後片付け等、できる役割を担っている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎食後記録し、お一人おひとりの状態に配慮し、その情報を職員間で共有している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりに合わせた歯磨き、口腔ケアの声掛けをしている。義歯の方は夕食後毎日義歯洗浄剤を使用している。口の体操を昼食前に行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄リズムを記録し把握するように努めている。様子観察をして負担にならない程度に早目に声掛けをして、トイレで排泄が出来るように支援している。	排泄記録表で利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を基本としている。利用者の排泄状況により、トイレに可動式手すりを活用したり、夜間排泄時の転倒防止のため居室にポータブルトイレやセンサーマットを設置する等、状態像に合わせた自立支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの体調、排便のリズムを把握できるよう情報の共有に努めている。便秘時には、食物繊維の多い物や乳製品を多く摂る等の工夫をしている。適度な運動等も実施している。主治医にその都度相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お一人おひとりの体調や意向を大切に、お一人ずつ入浴して頂いている。それ以外にも状況に応じて清拭やシャワー浴で清潔保持している。冬至にはゆず湯に入ってもらっている。	週2回の午前浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者の状況によりシャワー浴や足浴等に対応したり、冬至に柚子湯を提供することもある。要望があれば同性介助も可能で、入浴が貴重なコミュニケーションの場ともなっている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を大切に、午睡される方は休んで頂いている。入浴後や体調に合わせてベッドで休息して頂いている。就寝時間は本人様に合わせて入眠出来るよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルして薬の目的や副作用について把握し職員間で共有している。薬の服用で変化が見られる時には主治医へ報告相談している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を把握し、今出来る事やお好きな事に着眼している。お一人おひとりに合わせた役割、楽しみを見つけていただけるように支援している。	レクリエーション担当職員が主となり、利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援している。今できる事に着目し、できて自信になる事を大切にしている。折り鶴で季節の風物詩を作ったり、花の苗植え付け等、率先して参加する利用者が出て来ている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人内の散歩、町内のドライブ、病院受診、美容院等で外出されている。※現在新型コロナウイルス感染症対策により制限を設けている。	コロナ禍で法人敷地内の散歩・受診・馴染みの美容院・お花見ドライブ以外の外出は自粛中である。新型コロナウイルスの収束状況により、従来実施していた季節の外出行事や地域行事等で「非日常」を楽しんだり、自宅への一時的な帰宅や日常的な買物等で気分転換を図りたい意向もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金を使うことが無い為、ご家族が管理されている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・友人から電話があれば、ご本人とお話をして頂いている。本人様から電話がしたいと要望があれば支援している。(ご家族のご負担も考慮している)荷物や年賀状が届いた際には本人様に見て頂いている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日3回温度・湿度を計測し、記録している。換気も行っている。リビング・廊下・脱衣場には床暖房が入り過ぎやすくなっている。テラスで日光浴をしたり、広い窓からは山や空、風車が見えて季節を感じられる。季節に合った折り鶴の貼り絵等が飾ってある。	事業所横の紫陽花、プランターの花、季節行事の飾り付けや利用者とする壁掛け作品等で季節の移ろいを感じられるよう配慮している。広い窓から風力発電用の風車群が見えるリビングには減災対策で防災無線を設置し、足元には床暖房もある。利用者も洗濯物畳み・後片付け等を行っている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の思いを大切にし、お一人おひとりが自由に共有の空間や部屋などを行き来されている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた馴染みの物を持参して頂き、ご本人が居心地良く過ごせるようにしている。(テレビ・写真・タンス・キャビネット・化粧品・写真等)ご家族が手作りされた置物を飾ったりされている。	居室にはベッド・クローゼット・洗面台等が備え付けられている。使い慣れた物や娘さん手作りの干支の置物等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。又、夜間排泄時の転倒防止のためポータブルトイレやセンサー等を設置している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今出来る事に着目し、なるべくその力を活かせるように支援している。洗濯干し、洗濯物たたみ、部屋の掃除等を職員と一緒にやっている。安全で自由に移動出来るよう動線を確認している。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

ひらお・みんなの家

作成日

令和5年3月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点，課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	理念策定から10年経過し、振り返りを行い更なる向上が必要である。	具体的な達成度を定期的に検証できる仕組み作りをして、「可視化」する。	4つある理念を毎月1項目ずつ各自が具体的に取り組む目標を決めて実践し、どのくらいできたか評価をする。	12ヶ月以内
2	5	運営推進会議に参加されていないご家族との情報共有が不十分である。	運営推進会議の情報共有ができるようにする。	コロナ禍で書面開催の場合は全家族へ送付しているがアンケートでご意見があった場合は、とりまとめて再度送付する。会議を行った場合は参加されなかったご家族へ議事録を送付させていただく。	6ヶ月以内
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。